

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基盤としながら、生涯学習の視点に立って、児童の個性を生かし可能性を引き出す教育を推進し、夢や希望をもって持続可能な社会づくりを担い得る、知・徳・体・情操の調和のとれた豊かな人間性をもち、自ら学び、考え、行動する児童の育成を目指す。

【 かしこく やさしく がんばる 千寿の子 】

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	◎「千寿プライド」 Well-Being (幸せ) な学校 ・児童が学ぶことを楽しいと思える学校 ・教職員がやりがい、生きがいを感じる学校 ・保護者が安心して子どもをかよわせたい学校 ・地域に愛され、地域と共に成長する学校
○児童・生徒像	・「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」が生まれ、将来の社会を生き抜く力の基礎が育っている児童 ・規範意識があり、協働の精神をもち、他者を思いやることができる児童 ・自己実現に向かって、最後まであきらめず努力する児童 ・よりよい生活習慣と、健康・体力の保持増進に努める児童
○教師像	・安全、安心に配慮し、「子どもファースト」で児童一人一人を大切にしたい教育を推進する教師 ・研鑽に励み、児童が学びたい質の高い授業を工夫できる教師 ・人権感覚が高く、服務に対する厳正な態度をもち、法令を遵守する教師 ・同僚性を大切に、組織人として積極的に協力し成果をあげる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

「日本の未来を拓く千寿小」を基本理念に、次代を担う人材の育成に努める。全ては子どもの成長のため、「子どもファースト」を意識しながら、①ICTの活用を通して「指導の個別化」と「学習の個性化」を推進、②「質」と「実」を意識したSDGsに係る取組、③安全・安心に配慮しながら「コロナ・ブランク」を解消の3点を柱に教育活動の充実・改善に努めることができた。「学力向上アクションプラン」については、区調査（2～6年）で、通過率が国語 86.0%、算数 86.8%と、学校として設定した目標の水準には若干とどかなかったが、区の平均より4ポイント以上上回った。また、国調査（6年）は、平均正答率の対都平均で国語が+5P、算数が+6Pという結果であった。単元テストの結果から、知識及び技能については確実な定着がみられたが、思考力・表現力・判断力については、育成する必要がある。特に算数については、区の研究指定校として年間を通して組織的に授業改善に取り組み、児童の学力向上に力を入れる。「豊かな心の育成」については、昨年度の途中から「5つのあ」を千寿小生活スタンダードとして学校生活全体で規範意識を育てた。また、人との直接的なふれあいを大事にした。今年度も協働学習、特別活動、異学年交流をさらに充実させ、思いやりの心を育てると共に、自己肯定感を高める。また、児童一人一人の悩みに応じた相談的機能を充実し、いじめ及び不登校の未然防止、早期発見、早期解消を図る。「体力向上・健康の保持増進」については、学校が設定した目標値を達成できたが、今後、目標設定値を高めることを目指し、全校で体育的な取り組みを充実させると共に、取り組み方の見直しを行っていく。また、齲歯の保有率は1.7%と大幅に改善されたが、規則正しい生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん）の定着は十分ではない結果となった。引き続き児童・保護者への啓発と協力を求め規則正しい生活習慣の定着を図る。

4 重点的な取組事項						
	内 容	実施期間（年度） R：令和				
		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9
1	学力向上アクションプラン	◎	◎	◎	◎	◎
2	豊かな心の育成	○	○	○	◎	◎
3	体力・運動能力の向上と健康の増進	◎	◎	○	○	○
4	開かれた教育課程の実行	△	○	○	○	○

5 令和7年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)		コメント・課題			達成度 ◎○△●	
学習の個別最適化と協働性の向上		国語 88.0%、算数 88.0%	国語 92.7%	算数 91.8%	通過率が向上し、目標を上回った。			◎	
B 目標実現に向けた取組み									
新規・継続	アクション プラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●

1 新規	授業の充実	全学年 全教科 全領域	日々の 全授業・ 年間6 回の算 数の提 案授業	年間10回の校内研修 会を実施すると共に、年 間を通して、若手教員向 けの研修会を実施する。 算数の研究授業を各学 年1回は公開し、講師よ り指導を受ける。	・授業改善プ ランに則った 授業を実施で きたか授業観 察シートで確 認する。 ・年間2回、 児童へ授業に 関するアンケ ート調査を実 施する。	・管理職及び同 学年の教員が 授業観察を年 間2回以上行 う。観察シート の9割以上の 項目で○が付 く ・授業が分かる と回答する児 童90%以上、授 業が楽しいと 回答する児童 90%以上	・全教員対象の校内 研修を年間10回実 施。 ・若手教員（採用4 年目まで）を対象の 若手研修会を8回実 施。 ・年間2回、管理職 及び同じ学年の教員 が授業観察を行い、 指導助言を行った。 ・授業観察シートを 1年間かけて作成し た。次年度から全教 員で活用する。 ・授業がよくわかる と回答した児童 94.8%。授業が楽 しいと感じる児童 89.6%	・区学力調査の結果 を分析し、授業改善 プランを作成して、 授業改善を図った。 ・千寿小学校として の授業観察の視点や 基準を設け、次年度 以降、授業の基本と なる項目を共通で取 り入れる。 ・授業の理解度と授 業が楽しいと思える ことは、深く関連す る。今後も、教材研 究を行い児童の興味 関心を引き出しなが ら、分かる授業を行 う。	○
2 継続・ 発展	「思考・判断 ベース」の授 業づくり	全学年 全教科・ 領域	各授業 補充的 な取組	言語活動の工夫・改善、 ICTの積極的な活用、 主体的・対話的な学習・ 活用型学習の充実、「問 い」の工夫、校内研究（算 数）の教育活動全体への フィードバック。	①6年国調査 （4月）の 平均正答率 ②単元テスト の「思考力・ 判断力・表現 力」の観点	①国・算ともに 都平均を上 回る ②国・社・算・ 理いずれも 平均 80%以上	①全国学力調査（6年 生）の平均正答率 国語 72.9% 算数 70.6% 区学力調査（1～6 年生） 国語 82.2% 算数 83.4% ②単元テスト（1～ 6年） 国語 89.9% 算数 80.9% 理科 80.6% 社会 86.1%	・全国学力調査の正 答率は、国語、算数 の2教科平均が、東 京都の平均値より 4%以上高い結果だ った。 ・区学力調査は区平 均より3%以上高い 結果だった。 ・単元テスト「思考 力・判断力・表現力」 の向上を今後も目指 していく。	○

3 継続・発展	基礎的な知識・技能の確実な定着	第1・2学年：国・算、第3～5学年：国・社・算・理	各授業 補充的な取組	SP表分析の活用（特段の支援が必要な児童と定着の難しい内容の明確化）、授業及び補充的な取組における指導の個別化・多層化の推進、AIドリルの効果的な活用	①単元テストの平均達成率80%以上の児童 ②区調査問題による定着度確認（2月）の通過率 ③AIドリルの活用状況	①国・社・算・理のいずれも80%以上 ②国・算ともに85%以上 ③全ての児童が月平均で250問AIドリルを活用・週1回以上AIドリルを活用した児童の割合80%以上	①国語 87.4% 算数 85.5% 理科 85.5% 社会 87.7% ②国語 84% 算数 83.4% ③平均回答数 394 問 週1回以上 87.1%	<ul style="list-style-type: none"> 区学力調査結果のSP表分析を基に、個の応じた躓きの解消を図った。 AIドリルの活用は、昨年度より定着してきたが、学級により活用頻度の差が生じている。引き続き、反復学習や自主学習に活用する。 	◎
4 継続・発展	家庭学習の充実	宿題は全学年 自学自習は第3学年以上	家庭	①全学級での提出状況の記録 ②学力向上委員会による取組状況の確認	①宿題提出率 ②自学自習の定着率	①90%以上 ②90%以上	①宿題提出 89.7% ②自主学習 87.1%	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習は、昨年度同様、ほぼ定着している。 自主学習については、全教員が自主学習の内容や指導について共通認識した上で、指導を行必要がある。 	○

5 継続・発展	読書習慣の定着	全学年 全教科・ 領域 授業前・ 授業間・ 放課後・ 家庭	原則毎日	①図書館行事の計画的な実施（読書貯金、読書月間、読み聞かせ、特別貸出、読書感想文コンクール、調べる学習コンクール・図書館ボランティアとの連携、図書館支援員の活用・家庭読書の推進、休み時間の図書館活用の推奨、選書の工夫、蔵書の充実、異学年の読み聞かせ交流） ②年間目標読書量の提示 1年 60冊、2年 70冊、3年 80冊、4年 3000ページ、5、6年 4000ページ	①一週間に本を読む児童の割合 ②本を読むことが楽しいと感じている児童	①1週に3回以上、本を読む児童の割合 80%以上 ②本を読むことが楽しいと感じている児童 90%以上	①週3回以上、読書をする児童 82.7% ②本を読むことが楽しいと感じる児童 83.5% ・年間読書量を達成した児童の割合 1年生 86% 2年生 79% 3年生 86% 4年生 78% 5年生 80% 6年生 55%	・図書ボランティアさんによる読み聞かせ、図書委員会による読み聞かせ、読書旬間での上級生から下級生へのマンツーマンの読み聞かせ、担任以外の教師による読み聞かせを行った。 ・児童に読みたい本のアンケートをとって、児童に人気がある本を購入した。1度に借りられる本の冊数を2冊から3冊に増やした。	△
6 継続・発展	中学校との接続を意識した英語力の育成	第5、6学年英語	各授業補足的な取組	教科英語の趣旨を踏まえた4技能をバランスよく育む授業、個別支援の充実、パフォーマンステストの実施、他教科・領域と関連付けた学習	①チェックテスト（年間2回） ②区調査問題を活用した定着度確認（6年生2月）	①いずれも達成率80%以上の児童 90% ②通過率90%	①10月 89% 2月 89% ②通過率 88%	・英語専科の授業を中心に英語の4技能をバランスよく身に付けることができた。	○
7 継続・発展	ICTの効果的な利活用	全学年 全教科・ 領域	各授業補足的な取組	足立スタンダードに基づいた問題解決的な授業におけるICT機器の効果的な利活用。ICT機器の活用による個別指導・補足的学習・家庭学習・協働的な学習場面の充実。	①ICTの活用に対する児童の評価 ②AIドリル及びICT機器を計画的に活用する教員の割合	①問題を解決するためにICTを使うことができる児童 90% ②ICTを毎日活用する教員 100%	①第1回 92.9% 第2回 94.8% ②100%	・今年度、学年ごとの情報リテラシーを明確にし、年間指導計画を作成した。 ・日常的にGoogleのアプリやデジタル教科書を活用しながら、授業を展開している。	○

重点的な取組事項－2		豊かな心の育成			
A 今年度の成果目標	達成基準		実施結果	コメント・課題	達成度
全ての児童の明るい学校生活の実現	①「学校は楽しい」と感じている児童 95% ②「子供は、楽しく学校に通っている」と感じている保護者の95%		① 第1回 91.3% 第2回 92.2% ② 第1回 92.0% 第2回 88.1%	児童と保護者の乖離がなく、学校生活を肯定的にとらえている。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
思いやりの心を持ち、相手も自分も大切にする	①いじめの早期発見、早期解消 ②全校での学校生活の改善に係る児童の主体的な取組を年2回以上 ③全学年で異学年との交流を1回以上	①年間3回「いじめアンケート」の実施 ②年間2回「WEBQU」の効果的な活用 ③児童の自主的・主体的な取組の推進、幼保との交流、「いじめ防止・対処授業」の充実	①1月上旬時点でいじめとして117件を認知し、111件解消、6件経過観察 ②6月と11月に「WEBQU」を実施し、結果を分析 ③10月「いじめ防止集会」を実施。異学年交流を全学年で実施	・年間3回のふれあい月間でいじめのアンケートを実施。いじめ対策委員会を定期的開催。「WEBQU」を分析し、不登校やいじめの早期発見、早期対応に活用した。 ・異学年交流により、上級生や下級生への意識が高まった。次年度は、直接的な交流を充実させる。	○
基本的な生活習慣を身に付け、きまりを守り礼儀正しく生活できる児童の育成	①「5つのあ」が定着した児童85%以上 ・あいさつ ・あつまり ・あとかたづけ ・あたたかい言葉 ・あきらめない心	①代表委員会を中心とした児童の自主的な取組の充実、保護者・地域との連携 ②生活目標の達成率を数値化 全校児童による挨拶運動	①「5つのあ」の定着率 91% 「あいさつ」93% 「あつまり」94.9% 「あとかたづけ」90.9% 「あたたかい言葉」85.7% 「あきらめない心」91.4% ②1月より、毎週の生活指導目標の達成率を数値化した。	・昨年度の9月から千寿小生活スタンダードとして、全校で取り組んでいる。朝の登校時、正門にて、あいさつ運動を全ての学年が行っている。 ・生活目標の達成率を数値化することで、教師と児童の生活目標に対する意識を高めた。	○

重点的な取組事項－3		体力・運動能力の向上と健康の増進			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
習慣の定着と主体性の向上		体力テストで都平均以上の種目 40% 総合評価で AB 評価 30%以上、 DE 評価 35%以下	体力テストで都平均以上の種目 47% 総合評価で AB 評価 34% DE 評価 34%	・概ね目標を達成できたが、数値としては低い状態である。全体的な目標数値を向上させたい。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
多様な運動機会の場と内容の充実	①「運動が好き・楽しい」と感じている児童 95%以上	「体力向上推進プラン」に基づく継続的な取組と情報提供の徹底、「動きの洗練性を高める授業」「協力・協働の意義や重要性を実感できる授業」の工夫	①運動が好き・楽しいと感じている児童 第1回 84.7% 第2回 88.8%	・児童数が 830 名以上いて、校庭が狭く運動する場所の確保に工夫が必要である。 ・今年度より毎月 1 回体育朝会を実施した。	△
健康な生活習慣の確立	①早寝・早起き・朝ごはん・歯みがき・運動習慣の定着状況が 90%以上 ②むし歯の保有者が 10 月の段階で 7%以内・2 月の段階で 3%以内 ③1 月測定時で肥満度 20 以上の児童が 7%以下	生活実態調査の実施（年間 2 回）、養護教諭・栄養職員の専門性を生かした指導の実施、家庭・関係機関と連携しての「むし歯ゼロ」の推進	①規則正しい生活習慣の定着 88.3%（保護者の回答） ②むし歯の保有者 1 月末現在、1.8% ③肥満度 20 以上の児童 6.1%	・長期休業明けの 2 週間に「生活のきろく」を記録させ、家庭と協力しながら、規則正しい生活習慣の定着を図った。 ・1 年生は、むし歯予防のために、講師を招いて 6 ちゃん教室を実施した。 ・学校保健委員会にて外部講師を招いて正しい間食について P T A と教員が学ぶ機会をもった。	○

重点的な取組事項－4		開かれた教育課程の実行			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度

<p>学校の教育活動の可視化・保護者、地域と連携した教育活動の充実</p>	<p>①学校は、教育活動の様子や情報を伝えている 90%以上 ②学校は、子どもの多様な学ぶ機会を大切にしている 90%以上</p>	<p>①学校は、教育活動の様子や情報を伝えている 90.6% ②学校は、子どもの多様な学ぶ機会を大切にしている 85.6%以上</p>	<p>教育活動の見える化を図った。ゲストティーチャーを招いた授業を積極的に実施した。</p>	<p>○</p>	
<p>B 目標実現に向けた取組み</p>					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
<p>情報発信の充実</p>	<p>①学校だより(学年だより)を年間11回発行する。 ②校長ブログ、学校ブログを年間計190回以上更新する。 ③保護者や地域の方が授業や学校行事を参観する機会を設けている90%以上</p>	<p>①保護者会を年間2回行い、個人面談を7月と12月に実施する。 ②学校行事の後に保護者にアンケートを取り、充実した教育活動の一助とする。 ③授業公開日、学校行事を積極的に公開し、H&Sにより、情報の共有を図る。</p>	<p>①保護者会を年間2回実施 個人面談を7月と12月に実施 ②運動会、音楽会、学校評価のアンケートを行った。 ③学校行事(運動会・音楽会・持久走記録会)、道徳授業地区公開講座、土曜授業、学校公開週間(2回)により保護者に公開した。</p>	<p>・校長ブログ、学校ブログ共に、昨年度より更新を増やして情報発信に努めた。 ・アンケートに挙げられた意見には、学校として回答を行った。 ・一年間のバランスを考えて、授業を公開する機会を確保した。</p>	<p>○</p>
<p>外部人材、地域教材を活用した授業を実施</p>	<p>①全学年で、外部講師を招いたり、地域の教材を利用したりした授業を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・縄跳び名人 ・農家の人 ・パラスポーツ ・昔遊び ・健康教育 ・キャリア教育 ・プログラミング授業 ・郷土資料館の活用 ・PTAとの連携 	<p>中央図書館・6ちゃんクラス・緑のカーテン・走り方教室・交通安全教室・歩行者シュミレーター・音楽鑑賞会・環境漫才・投げ方教室・ボッチャ教室・プログラミング教室・足立市場の見学・日本の文化と食の学習・下水道キャラバン・租税教室・スマホの使い方教室・日本赤十字・イリュージョンマジックショー・戦争体験者の話・薬物乱用防止教室・弁護士によるいじめ防止教室・森のタンブラーづくり・水泳教室・投げ方教室・障がい者理解 その他多数</p>	<p>・外部講師を招いて、本物から学ぶ機会、より質の高い指導を受ける機会を増やした。 ・知識・技能の面で児童の力が高められた。また、学習内容に対する興味・関心も高まった。今後もプロや本物から、体験を通して学ぶ機会を大切にする。</p>	<p>◎</p>

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

昨年度の途中から、始めた新たな教育活動の定着と質の向上を図る一年間だった。学校の生活スタンダードとして取り組み始めた「5つの^あ」の合言葉が児童の間に浸透しつつある。毎週の生活指導目標にも「5つの^あ」を意識して取り組んでいる。一方で自分からあいさつをする児童、あいさつをされれば返す児童、あいさつを全くしない児童がはっきりとしてきた。また、声を出してあいさつができる児童と、そうでない児童の差も目立つ。あいさつは、他者との関係づくりの基本であり、将来、社会人として大切な行動と考える。次年度もあいさつは、全校で重点的に取り組んでいく。

学力は、全学年で昨年度よりも向上した。区学力調査の結果を分析し、児童がつまづいている学習の内容を明確にしながら、前学年の内容に戻って教えたり、今年度より始めた毎週木曜日の放課後学習教室で、児童のつまづきに応じた個別指導を充実させたりしたことが、効果的だったと考える。次年度も、学力向上に関する取組をさらに充実させていく。これまでも、児童一人一台のタブレット端末を活用した学習活動を行ってきたが、今年度より千寿小学校 ICT リテラシーを設定し、発達段階に応じたタブレット端末の活用力を明確にし、各教科の学習活動の中で計画的にタブレット端末を活用する活動を入れ児童の活用力を高めると共に、問題解決能力や表現力の向上を目指す。

体力面では、限られた敷地で児童の体を動かす機会を担保するために取り組み方を工夫した。全校で体力向上に資する活動として、持久走・短なわ検定・長なわ旬間を実施した。今年度からの新たな取り組みとして、体育朝会を毎月1回実施し、児童の体力向上及び体を動かすことの楽しさを味わえる機会を増やした。次年度も個々の活動を充実させ、取り組み方を工夫することで体力の向上を目指す。

児童の心を育てるため、異学年交流を充実させた。全学年が自分以外の学年と学習や遊び等の活動を計画的に実施できるよう、異学年交流の年間計画を作成した。本校は、児童数が多いのでクラス単位での異学年交流を通して、下級生を思いやる心や上級生を敬う心を育てている。次年度も、異学年での直接交流の充実を図る。また、児童会を中心に児童主体で学校生活をよりよくしようという取組を行っている。特にいじめの撲滅やあいさつの取組、学校行事のテーマづくりなど、児童会が主体となり全校児童に発信できた。今後も、児童が主体となって千寿小学校をよりよくするための活動を大切にしたい。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

昨年度、本校の校長に着任して、これまで行ってきた千寿小学校の教育活動全般の取組や児童の実態をみながら、本校の児童（知・徳・体・生活規範意識）やこれまでの教育活動の良い点や課題点を考察しました。今年度は、昨年度の考察を基に、良い点はさらなる充実を図り、課題と捉えた点について改善を図ることに重点をおきました。

本校は、この6年間で児童数が200名以上増加するとともに、6年前に行われた校舎と校庭の改築工事により、校舎や校庭のつくりも大きく変化しました。単純に、全ての教育活動を改築1年目と同じように戻すことは厳しい状況にあります。しかし、現在の児童数と建物や敷地面積の状況を理由に、「できない」とあきらめるのではなく、子どもたちの学ぶ機会を充実させ、児童が生き生きと学べる活動を第一優先に考えました。個々の教育活動を見直し、千寿小学校に在籍する児童が、6年間の充実した教育活動を享受できるように、創意工夫しました。

学校行事では、5年前よりコロナ禍のあおりを受け3日間で実施していた運動会をコロナ禍前の1日での運動会に戻しました。音楽会では、前回できなかった全校児童が体育館に一堂に会して、お互いの発表を見合う場を設けることを実現しました。また、保護者、地域の方に開かれた学校づくりを目指し、校長ブログ及び学校ブログをこまめに更新したり、運動会や音楽会では動画の生配信にも挑戦したりしました。

生活指導では、千寿小学校の生活スタンダードとして、昨年度の途中で掲げた「5つの^あ」（あいさつ・あつまり・あとかたづけ・あたたかい言葉・あきらめない心）の育成を全校で取り組んでいます。昨年度と比べ、児童に「5つの^あ」が浸透して、児童自身の自己評価は高いのですが、まだ行動が伴わない部分があるので、次年度も引き続き、「5つの^あ」の各内容について年間を通して児童の健全育成の指針として取り組めます。

さらに、今年度は、千住宿開宿400年の年にあたり、千寿小学校の近くにある足立市場とのつながりを作り、足立市場の見学や千住の町に古くから親しまれている料亭の明日香さんをゲストティーチャーにお招きして、和食の素晴らしさを学んだり、音楽イベント千住の1010人に、ジュニアバン

ドの有志が参加したりと、千住地域の特色を子どもの教育活動に生かすことができたことは、子どもたちにとって貴重な体験となりました。

最後に、千寿小学校は旧千寿小学校と旧千寿第二小学校という歴史ある二つの学校が一つになった、地域に愛され地域と共に成長してきた学校です。千住の町に生まれた子どもたちが、千寿小学校で学び、千住の町を愛し、将来、千住の町をさらに盛り上げ、未来の日本を支える人材として成長できるよう、引き続き保護者地域の方と手を取り合って、よりよい教育活動に尽力いたします。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(3) その他（学校教育活動全般について）

本校は、足立区教育委員会の指定を受け、指導力向上中核校（令和2年度～令和11年度）として、算数科の指導法の工夫改善の研究を行い、6年目を迎えた。研究テーマを「児童を主役とする授業づくり～自分の考えをもち、すすんで伝える児童を目指して～」と設定し、一年間研究を行った。今年度の研究の成果と課題を分析し、教師の指導力向上に次年度以降も継続して取り組み、足立区内の全小学校に本校の研究が還元できるように、引き続き研鑽をつむ所存である。